

パターン	対応ルール	対象薬剤例
①ATCcodeが付与されていない場合	ATCレベル4まで薬効分類に従い付与。 レベル5以降は順番にXA、XBと付番する (現在も流通している医薬品はATCの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	J01CAXA シクラシリン(O) J04AAXA アルミノバラアミノサリチル酸カルシウム水和物 (O) J05AEXB パニプレビル (O)
②DDDが付与されていない場合	JDDDとし、原則として、日本の添付文書最大用量とする体重あたりの投与量が設定されている場合は70kgで計算する。 (現在も流通している医薬品はDDDの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	A01AB18 クロトリマゾール (troche) JDDD : 0.05g G01AF17 オキシコナゾール硝酸塩 JDDD : 0.1 g J01CAXA シクラシリン(O) JDDD : 2g J01FA03 ミデカマイシン(O) JDDD : 1.2g J01GB06 アミカシン (liposome inhalation) JDDD:0.59g J02AA01 リボソーマルアムホテリシンB (P) JDDD : 0.15g (※体重60kgで設定) J04AAXA アルミノバラアミノサリチル酸カルシウム水和物 (O) JDDD : 15g J05AEXB パニプレビル (O) JDDD : 0.6g J05AH04 ラニナミビルオクタン酸エステル水和物 (laninamivir) JDDD : 0.16 g (吸入懸濁用) J05AP58 タクラタスビル塩酸塩・アスナプレビル・ベクラピビル塩酸塩 (O) JDDD : 4 UD P01BF01 アルテメテル・ルメファントリン (O) JDDD:1.12g 合計の力価としてJDDDを設定 (短期投与する薬剤に対するDDDのルールに基づき (0.14g×4T×6回= 3.36g)/3日間=1.12g)
③抗菌薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載。	A02BD～ ヘリコバクターピロリ除菌薬 WHOの組み合わせ薬剤のDDD設定ルールに従って1日の錠数をDDDとしてUD設定 (クラリスロマイシンの規格400mg:10UD 800mg12UD) J01CR50 アンピシリン (125mg) /クロキサシリン(125mg) (O) DDD : 8UD J01CR50 アンピシリン水和物・クロキサシリンナトリウム水和物 (P) DDD : 2UD J01EE01 スルファメトキサゾール・トリメトプリム (O・P) DDD : 4UD P01BB51 アトバコン・プログアニル塩酸塩 (O) DDD:4UD
④抗ウイルス薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載。	J05AP51 レジバシビル アセトン付加物・ソホスブビル (O) DDD : 1UD J05AP53 オムビタスビル水和物・パロタプレビル水和物・リトナビル (O) DDD : 2UD J05AR01 シドブジン・ラミブジン (O) DDD : 2UD J05AR09 エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル・ジシプロキシルフマル酸塩 (O) DDD:1UD
⑤規格が〇〇万単位の場合	DDDをMUとして処理	A07AA05 ボリミキシンB (O) WHO ATC/DDD=3MU(O) 。300万単位の力価を3(MU) とし、DDDは3とする。50万単位は0.5(MU) 。 A07AA10 コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム(O) WHO ATC/DDD=9MU(O) 。規格を3 (MU) として、DDDは9(MU) とする。 J01CE01 ベンジルペニシリンカリウム (P) WHO ATC/DDD=3.6 g (P) 。100万単位=0.6gなので、6MU=3.6g。規格を1 (MU) として、DDDは6(MU) とする。 J01CE08 ベンジルペニシリンベンザチン水和物 (O) DDDは1.6 (MU) とする。 J01FA02 スピラマイシン (O) WHO ATC/DDD=3 g (O) 。1gを300 (MU) とし、DDDは9 (MU) とする。 J01XB01 コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム (P) WHO ATC/DDD=9MU (P) 。規格を3 (MU) として、DDDは9(MU) とする。
⑥酵素阻害剤の入った合剤の場合	WHOでは抗菌作用成分のDDDに従うとされているが、流通データ・レセプトデータでは、本数データを扱うため、本マスタ上では配合比を加えJDDDと設定して対処。	J01CR01 アンピシリン・スルバクタム (P) アンピシリン+酵素阻害剤のWHO ATC/DDD=6g。配合比ABPC:SBT=2 : 1のため、DDDを9と設定。 J01CR02 アモキシシリン・クラブラン酸 (O) クラバモックス : 1.01g製剤中にAMPC 0.6g/CVA 0.0429g含有。DDDはAMPCとして設定 オーグメンチン : 力価はCVAも含める。DDDはAMPCとして1.5だが、合剤 (2:1) のため、2.25と設定 J01CR05 タソバクタム・ピペラシリン (P) ソシン : TAZ/PIPCは (DDD=14) として算出するが、配合比が8:1のため、便宜上DDDを15.75 J01DD62 スルバクタム・セフォペラゾン (P) セフォペラゾン (DDD=4) として算出するが、配合比が1:1のため、便宜上DDDを8とする。 J01DH51 イミペネム・シラスタチン (P) 規格にシラスタチンを含まないため、補正は不要。イミペネム (DDD=2) として計算する。
⑦WHOCCでDDDが設定されているが、JDDDを用いている薬剤	集計状、便宜上の理由のため	J01CR01 アンピシリン・スルバクタム (P) WHO : DDD=6g →アンピシリン+酵素阻害剤のWHO ATC/DDD=6g。配合比ABPC:SBT=2 : 1のため、DDDを9と設定 J01CR05 タソバクタム・ピペラシリン (P) WHO : DDD=14 g →ソシン : TAZ/PIPCは (DDD=14) として算出するが、配合比が8:1のため、便宜上DDDを15.75と設定 J01DD62 スルバクタム・セフォペラゾン (P) WHO : DDD=4 g →配合比が1:1のため、便宜上DDDを8と設定 J05AF07 テノホビル シシプロキシルフマル酸塩 (O) WHO : DDD=0.245 g →tenofovir disoproxil のDDDは0.245g、フマル酸塩として0.3gとして設定 J05AR10 ロピナビル・リトナビル (O) WHO : DDD=0.8 g →全量の1 g として設定

※“JDDD”はJapan DDDとしてAMR臨床リファレンスセンターで設定しました。WHO Collaborating Centre for Drug Statistics MethodologyのDDDではありません。

※薬剤名の後ろにあるカッコ内は投与経路となります。(O) : oral、経口 (P) : Parenteral、非経口

※MU: 百万単位、UD: unit dose